

2017年度 環境活動レポート

(対象期間: 2016年10月1日~2017年9月30日)



株式会社長崎マツダ

2018年3月10日 発行

1. 組織の概要

①会社名及び代表者

会社名 株式会社 長崎マツダ
代表者 代表取締役 円田 幹

②所在地

本部 長崎県佐世保市大和町943番地1
佐世保店 長崎県佐世保市大和町943番地1

③事業規模

	本部	佐世保店
従業員数	10名	12名
床面積	2905.35m ²	

佐世保店(2016年度)

年間売上高 5億600万円
年間新車販売台数 137台
年間整備在庫台数 2637台

④事業内容

乗用車・商用車の新車販売
中古自動車販売
自動車部品・用品等の販売
自動車整備業
損害保険代理業 等

⑤環境管理責任者及び環境推進事務局

環境管理責任者 経営企画室 馬場 正信

EA21環境推進事務局 経営企画室 馬場 正信

TEL: 0956-33-1515

FAX: 0956-32-7778

2. 対象範囲

①初年度対象範囲

初年度 対象範囲	店舗名	所在地	電話番号
○	本部	長崎県佐世保市大和町943番地1	0956-33-1515
○	佐世保店	長崎県佐世保市大和町943番地1	0956-33-1515
	大村店	長崎県大村市松並2丁目1220番1	0957-53-1106
	島原店	長崎県島原市北門町1319番地1	0957-62-6131
	長崎店	長崎県長崎市本河内3丁目21番52号	095-827-1515
	諫早店	長崎県諫早市久山町2190番地1	0957-26-4394

初年度の認証登録の対象店舗

対象店舗 本部
 佐世保店

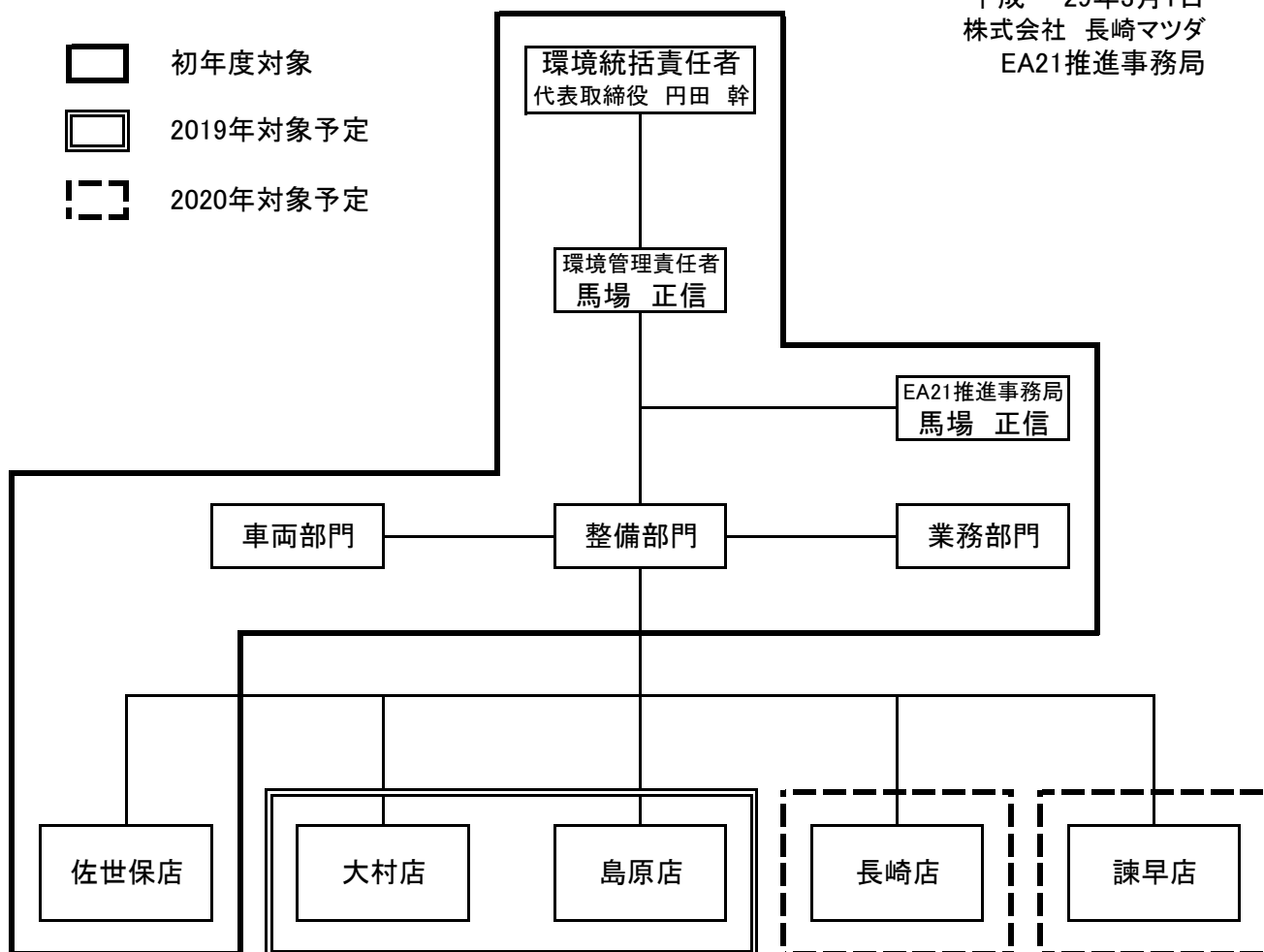
②対象範囲拡大計画

対象店舗 大村店 2019年度
 島原店 2019年度
 長崎店 2020年度
 諫早店 2020年度

3. 実施体制

平成 29年3月1日
株式会社 長崎マツダ
EA21推進事務局

- 初年度対象
- 2019年対象予定
- 2020年対象予定



<役割/責任>

環境統括責任者 <社長>	環境マネジメントシステム(以下EMS)に関する統括責任者 <ul style="list-style-type: none"> ・EMSの実施及び運用に必要な人・設備・費用・時間を用意 ・環境管理責任者の任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標の設定を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	実務上の責任者として、全社の環境取組を推進 ※代表者は、環境活動の実務に関して全部門に対する指揮命令権限を委譲 <ul style="list-style-type: none"> ・EMSの構築、実施、管理 ・環境活動計画書、環境関連法令取りまとめリスト等の承認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
EA21推進事務局	環境管理責任者をサポートし、全社環境取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・店舗の環境取組みの指導・支援 ・環境データの集計・取りまとめ
各部門 <部門長>	全社の環境取組みの推進 担当部門の環境取組みの責任者
店舗 <店長/サービスMgr.>	店長: 店舗の環境取組み全体の責任者として、店舗環境取組みの推進・管理 サービスMgr: サービス領域の環境取組みに責任を持つとともに 店舗全体の取組みにおいて店長をサポート
全従業員	環境方針の理解と、環境への取組の重要性の理解 決められた事の遵守、自主的・積極的な環境活動への参加

4. 環境方針

<基本理念>

株式会社 長崎マツダは、自動車販売・自動車整備などの全ての事業活動において、自然と調和を図りながら、地球環境の保護と豊かな社会づくりに貢献します。

<行動方針>

1. 環境に関する法規則を遵守します。
2. 限りある資源を大切にするため、省資源・省エネルギーに努めます。
3. 使用済み自動車の適正処理、リサイクルを推進します。
4. 循環型社会に向けて、廃棄物の削減・再使用・再利用活動を推進します。
5. 環境に配慮した製品の提供及びグリーン購入を推進します。
6. 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。
7. 全従業員にこの環境方針を周知徹底するとともに、環境活動レポートを作成し、公表します。

制定日 平成27年6月5日

株式会社 長崎マツダ

代表取締役 円田 幹

5. 環境目標

①環境負荷の現状

削減項目	単位	2014年度	2016年度
		(2013/10-2014/9)	(2015/10-2016/9)
二酸化炭素排出量	kg-CO2	117,933	147,786
電力使用量	kWh	112,554	137,517
ガソリン使用量	L	19,206	17,899
軽油使用量	L	1,593	8,321
ガス使用量	m ³	27	31
廃棄物排出量	kg	8,055	8,468
コピー用紙使用量	枚	100,000	100,000
水道使用量	m ³	542	661
グリーン購入	%	-	目標設定
エコカー販売台数	台	80	108
パックdeメンテ販売件数	件	175	563

②環境目標(3年間)

削減項目	単位	2014年度実績 (基準年度)	目標		
			2015年度	2016年度	2017年度
二酸化炭素排出量 (基準年度比率)	kg-CO2	117,933	116,754 99%	115,574 98%	114,395 97%
電力使用量 (基準年度比率)	kWh	112,554	111,428 99%	110,303 98%	109,177 97%
ガソリン使用量 (基準年度比率)	L	19,206	19,014 99%	18,822 98%	18,630 97%
軽油使用量 (基準年度比率)	L	1,593	1,577 99%	1,561 98%	1,545 97%
ガス使用量 (基準年度比率)	m ³	27	27 99%	26 98%	26 97%
一般廃棄物排出量 (基準年度比率)	kg	-	データ収集	5,460 (データ収集・目標設定)	5405.4 99%
産業廃棄物排出量 (基準年度比率)	kg	8,055	7,974 99%	7,894 98%	7,813 97%
コピー用紙使用量 (基準年度比率)	枚	100,000	99,000 99%	98,000 98%	97,000 97%
水道使用量 (基準年度比率)	m ³	542	537 99%	531 98%	526 97%
グリーン購入 (エコ対象事務用品購入比率)	%	-	データ収集	データ収集/目標設定	目標設定
エコカー販売台数 (SKYACTIV販売台数比率)	台	80	81 101%	82 102%	82 103%
パックdeメンテ販売件数 (パックdeメンテ販売件数比率)	件	175	177 101%	179 102%	180 103%

5. 環境目標

②環境目標(2015年9月-2016年10月)

削減項目	単位	2013年10月-2014年9月実績	2017年
		(基準年度)	2016年10月-2017年9月目標
二酸化炭素排出量 (基準年度比率)	kg-CO2	117,933	114,395
			97%
電力使用量 (基準年度比率)	kWh	112,554	109,177
			97%
ガソリン使用量 (基準年度比率)	L	19,206	18,630
			97%
軽油使用量 (基準年度比率)	L	1,593	1,545
			97%
ガス使用量 (基準年度比率)	m ³	27.0	26.0
			97%
一般廃棄物排出量 (基準年度比率)	kg	-	5460
産業廃棄物排出量 (基準年度比率)	kg	8,055	7,813
			97%
コピー用紙使用量 (基準年度比率)	枚	100,000	97,000
			97%
水道使用量 (基準年度比率)	m ³	542	526
			97%
グリーン購入 (エコ対象事務用品購入比率)	%	-	データ収集/目標設定
エコカー販売台数 (SKYACTIV販売台数比率)	台	80	82
			103%
パックdeメンテ販売件数 (パックdeメンテ販売件数比率)	件	175	180
			103%

6. 環境活動計画

①二酸化炭素排出量の削減

(1) 電力使用量の削減

- ・メジャーサインの点灯・消灯時刻の設定確認
- ・不要な照明の消灯確認(社員のいない場所や部屋など)
- ・エアコンの温度設定の確認
(事務所 冷房28℃、暖房20℃ ショールーム 冷房26℃ 暖房22℃)
- ・エアコンフィルターの定期清掃(2ヶ月に1回)
- ・エアーコンプレッサーの退社時電源OFFの徹底
- ・長時間の離席時や未使用時パソコンモニター電源OFFの徹底

(2) 燃料使用量の削減

- ・エコドライブの啓発(エコドライブ10のすすめ)
- ・アイドリングストップの徹底
- ・タイヤの空気圧・不要な荷物チェック
- ・代車の燃料満タン貸し出し、満タン返しの励行
- ・ガスの元栓の確認

②廃棄物排出量の削減

- ・紙使用量の削減、両面コピー、縮小コピー、裏面の使用
- ・産業廃棄物の適正処理の徹底、分別
- ・産業廃棄物の契約書の確認
- ・一般廃棄物の削減(ゴミだし前の計量・記録)

③水道使用量

- ・水道メーターの確認・記録(漏水チェック)
- ・各蛇口周辺に節水の掲示
- ・洗車用ホースにストップノズルの取り付け
- ・事務所・洗車用水の節水

④グリーン購入の推進

- ・エコマーク商品の購入状況の把握
- ・エコマーク商品の購入検討(リストアップ)

⑤製品及びサービスにおける環境配慮

- ・エコカー(SKYACTIV搭載車)の拡販
- ・エコ整備(パックメンテナンス)の拡販

7. 環境目標と実績

2015年9月-2016年10月運用期間の目標と実績

削減項目	単位	2014年10月-2015年9月実績 (基準年度)	2017年度(2016年10月-2017年09月)		
			9月-10月目標	9月-10月実績	評価
二酸化炭素排出量 (基準年度比率)	kg-CO2	117,933	114,395 97%	152,573.17 133%	× 未達成
電力使用量 (基準年度比率)	kWh	112,554	109,177 97%	157,428 144%	× 未達成
ガソリン使用量 (基準年度比率)	L	19,206	18,630 97%	16,180.01 87%	○ 達成
軽油使用量 (基準年度比率)	L	1,593	1,545 97%	6,994.91 453%	× 未達成
ガス使用量 (基準年度比率)	m ³	27.0	26.0 97%	49.4 190%	× 未達成
一般廃棄物排出量 (基準年度比率)	kg	-	5460	5800 106%	× 未達成
産業廃棄物排出量 (基準年度比率)	kg	8,055	7,813 97%	3,201 41%	○ 達成
コピー用紙使用量 (基準年度比率)	枚	100,000	97,000 97%	98,500 102%	× 未達成
水道使用量 (基準年度比率)	m ³	542	526 97%	778 148%	× 未達成
グリーン購入 (エコ対象事務用品購入比率)	%	-	データ収集/目標設定	データ収集/目標設定	× 未達成
エコカー販売台数 (SKYACTIV販売台数比率)	台	80	82 103%	122 149%	○ 達成
パックdeメンテ販売件数 (パックdeメンテ販売件数比率)	件	175	180 103%	218 121%	○ 達成

※ 購入電力(九州電力)の二酸化炭素排出係数:0.613(kg-CO2/kWh)

※ 一般廃棄物排出量、グリーン購入は過去にデータがない為、次年度の取組みに向け、データを収集し

目標を検討していく

※ 削減率、増加率 評価基準 100%以上は○ それ以外は×

8. 環境活動の取組み結果と評価、次年度の取組み内容

1. 電気使用量削減の取組み

No.	取組み項目	取組み実施状況		
		10月～1月	2月～5月	6月～9月
1	メジャーサインの点灯・消灯時刻の設定確認	○	○	○
2	不要な照明の消灯確認(社員のいない場所や部屋など)	○	○	○
3	エアコンの温度設定の確認	○	○	○
4	エアコンフィルターの清掃(2ヶ月に1回)	-	○	-
5	エアーコンプレッサーの退社時電源OFFの徹底	○	○	○
6	長時間の離席時や未使用時パソコンモニターOFFの徹底	○	○	○

2. 燃料使用量削減の取組み

No.	取組み項目	取組み実施状況		
		10月～1月	2月～5月	6月～9月
1	エコドライブの啓発(エコドライブ10のすすめ)	○	○	○
2	アイドリングストップの徹底	○	○	○
3	タイヤの空気圧・不要な荷物チェック	○	○	○
4	代車の燃料満タン貸し出し、満タン返しの励行	○	○	○
5	ガスの元栓の確認	○	○	○

3. 廃棄物排出量削減の取組み

No.	取組み項目	取組み実施状況		
		10月～1月	2月～5月	6月～9月
1	紙使用量の削減、両面コピー、縮小コピー、裏面の使用	○	○	○
2	産業廃棄物の適正処理	○	○	○
3	産業廃棄物の契約書の確認	○	-	-
4	一般廃棄物の削減	○	○	○

4. 水道使用量削減の取組み

No.	取組み項目	取組み実施状況		
		10月～1月	2月～5月	6月～9月
1	水道メーターの確認・記録(漏水チェック)	○	○	○
2	各蛇口周辺に節水の掲示	○	-	-
3	洗車用ホースにストップノズルの取り付け	○	-	-
4	事務所・洗車用水の節水	○	○	○

5. グリーン購入の推進

No.	取組み項目	取組み実施状況		
		10月～1月	2月～5月	6月～9月
1	エコマーク商品の購入状況の把握	○	○	○
2	エコマーク商品の購入検討	○	○	○

6. 環境に配慮した製品の販売

No.	取組み項目	取組み実施状況		
		10月～1月	2月～5月	6月～9月
1	エコカー(SKYACTIV搭載車)の拡販	○	○	○
2	エコ整備(パックメンテナンス)の拡販	○	○	○

8. 環境活動の取組み結果と評価、次年度の取組み内容

①二酸化炭素排出量の削減

(1) 電力使用量の削減

<取組み結果>

2016年10月～2017年9月の目標数値は114,395kWhに対して、実際の電力使用量は152,573.171kWhだった。使用増加により、取組みは未達成だった。

<要因>

昨年に比べ暑い日が多く、エアコンの使用機会が増えた事やお客様の来店数が増え、接客時間や業務時間が増えたことが要因として考えられる。

<次年度の取組み>

7月～9月の使用量を見ると、目標数値は上回っているが削減している傾向にある。エコアクション21の活動が浸透してきている為、継続して活動を行っていく。

(2) ガソリン・軽油使用量の削減

<取組み結果>

ガソリン 2016年10月～2017年9月の目標数値は18,630ℓに対して、ガソリン使用量は16,180.01ℓだった。5%削減し取組みは達成した

軽油 2016年10月～2017年9月の目標数値は1,545ℓに対して、軽油使用量は6,994.91ℓだった。4倍以上の使用増加により、取組みは未達成だった。

<要因>

ディーゼル車の販売増加に伴い、試乗車の稼働率が上がったことが要因と考えられる。また、拠点間で試乗車を移動することが多くなった事も挙げられる。ガソリンは環境活動計画の実施や呼びかけの継続的な活動により、目標を達成した。

<次年度の取組み>

継続してアイドリングストップやエコドライブの呼びかけを朝礼時に行う。
デモカーのタイヤの空気圧の点検、不要な荷物のチェックを行う。
軽油はデータを収集し、目標値を再検討する。

8. 環境活動の取組み結果と評価、次年度の取組み内容

(3) ガス使用量の削減

<取組み結果>

2015年10月～2016年9月の目標数値は26.5m³に対して、ガス使用量は30.7m³だった。16%の使用量増で未達成であった。

<要因>

冬場の洗車にお湯を使用した。
来客が多く温かい飲み物を提供した。

<次年度の取組み>

削減目標よりやや増加しているため、データの収集で目標値の適性度を検討する。また、省エネ意識を徹底する。

② 廃棄物排出量の削減

<取組み結果>

一般廃棄物	データ収集ができたので次年度1%削減の目標を設定した。
産業廃棄物	2015年10月～2016年9月の目標数値は7,894kgに対し、産業廃棄物量は8,468kgだった。7%の排出増加により、取組みは未達成だった。
コピー用紙	2016年年度の削減目標数値は98,000枚に対し、コピー用紙使用量は100,000枚で未達成。

<要因>

車両販売増加による整備在庫の増加が要因と考えられる。
定期的に産業廃棄物を処理するのではなく、多量に溜まってから一気に処理する体制を取っていた事による処理時期のズレが要因である。
会議の増加により、コピー用紙の使用量が増加したと考えられる。

<次年度の取組み>

1%削減目標を定めて減量に向けた活動を進めていく。産業廃棄物は定期的に処分していく。両面コピー、縮小コピー、裏面の使用をし、紙使用量の削減を行う。

8. 環境活動の取組み結果と評価、次年度の取組み内容

③水道使用量

<取組み結果>

2016年10月～2017年9月の水道使用量の目標数値は526m³に対し、水道使用量は778m³だった。24%増加し取組みは未達成であった。

<要因>

車両の入出庫が増加し他のが原因と考えられる。
車両の洗車が増加したため、水道使用量が増加した。

<次年度の取組み>

データを収集し目標の再設定を検討する。
節水意識を継続するよう啓発していく。

④グリーン購入の推進

<取組み結果>

データの収集が行えなかった。原因は、購入者が社内で分散していたので把握が進まなかった。
データ収集を実施し、目標を設定する。

<次年度の取組み>

2018年9月まではグリーン商品がどれだけ購入されているかデータを収集する。

8. 環境活動の取組み結果と評価、次年度の取組み内容

⑤製品及びサービスにおける環境配慮

<取組み結果>

エコカーの拡販 2016年10月～2017年9月の目標数値は82台に対して、販売台数は（SKYACTIV搭載車）122台だった。40台の販売増加により目標を達成した。

パックdeメンテの拡販 2016年10月～2017年9月の目標数値は180件に対して、販売件数は218件だった。20%以上の販売件数増加により目標を達成した。

<要因>

新車の販売が好調の為にエコカー（SKYACTIV搭載車）の販売とパックdeメンテの販売が伸びた結果である。

研修やミーティングを行った結果、販売の向上に繋がった。

<次年度の取組み>

営業スタッフのミーティングや研修等を継続して行い、お客様への商品説明や提案力の向上を図る。

9. 環境関連法規等の遵守状況及び違反、訴訟の有無

①環境関連法規等の遵守状況評価

環境関連法規	要求事項	評価結果
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理	○
騒音規正法	特定施設の届出(コンプレッサー)	該当せず
振動規正法	特定施設の届出(コンプレッサー)	該当せず
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理	○
水質汚濁防止法	事故時の措置	○
下水道法	事故時の措置	○
消防法	消防設備等の点検	○
フロン排出抑制法	廃棄時の書面の交付 第一種特定製品の3ヶ月に一回の簡易点検	○
佐世保市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例	廃棄物の適正処理 廃棄物の排出の抑制 廃棄物の分別	○

②違反・訴訟の有無(外部等の苦情)

環境関連法規の違反はなく、関係機関からの指摘も受けておりません。
また、同様に訴訟等についても、過去3年間1件もありませんでした。

10. 代表者による全体の評価と見直し

■環境活動取組期間

2016年10月1日 ~ 2017年9月30日

■全体の評価とコメント

マツダのブランド価値の向上は継続しており、当社の事業活動もその恩恵を受けている年度となった。
結果の中でも、年々軽油の使用量が大きく増えてきている。最近も新型車種CX-8が好調であり、マツダのクリーンディーゼルの良さが市場で認められていることを感じている。
お客様も試乗する機会が増え、社員もディーゼル車を購入するということも増えてきている。
全体を評価したなかでは無駄な使用は無かったと考えているが、目標達成項目が増えるように活動を継続していきたいと考えております。

■取組項目の振り返り

No.	見直し項目	変更の必要性	変更「有」の場合の指示事項
1	環境方針の見直し	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
2	環境目標の見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	目標値と実績が大幅に違う項目に関して、1年間のデータを基に再設定を検討する。 活動状況を見て変更の有無を判断する。
3	環境活動計画の見直し	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
4	実施体制の見直し	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
5	その他の見直し	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

実施日： 平成30年3月10日

作成者： 代表取締役 円田 幹